

地域農業改革をお手伝いさせてください

9月14日、茨城県境町の(株)塚原牧場の圃場で農水省関東農政局主催による「子実トウモロコシの生産拡大に向けた現地研修会」が開催された。2013年以来、本誌が主催する形で行ってきた子実トウモロコシに関する実演検討会が農水省の主催で実施されるようになったことを喜ぶたい。さらに、農水省では平成30年度の概算要求において「国産飼料増産対策のうち国産濃厚飼料生産利用」として以下の内容を盛り込むことを明らかにしている。その中身は、

①低コスト栽培技術等の普及推進(補助率・定額) ↓ 全国シンポジウムの開催、生産コスト分析・優良事例の収集・情報提供、②生産・利用体制構築(補助率・定額、

1/2以内) ↓ (1)重点地区の育成・先進地調査、専門家による技術指導、実需者(畜産農家)

とのマッチング等、(2)重点地区における技術実践・乾燥・保管にかかる施設整備等の整備費支援、専用収穫機械導入費支援等である。

国産濃厚飼料の増産をテーマとした農水省の新規予算要求はそれ自体は歓迎すべきことであるが、本誌が

語ってきたのは単なる濃厚飼料の増産だけではない。我々の呼びかけでは、常に「水田イノベーション」という言葉を添えていた。水田農業への畑作技術体系導入という水稲生産の技術革新と、それによる低コストでの水田経営規模拡大の実現。そのうえで子実トウモロコシ生産を提案してきた。これからまた進む農地供給に对应しながら規模拡大による水田経営リスクを軽減する術として有効であることを訴えてきたのである。

今回の現地研修会で報告を求められ、パネルディスカッションでコーディネータ役を務めた僕は当然のこととしてそれを主張し、これまで同志としてこの課題に取り組んできた報告者や参加していた経営者たちにその文脈で発言していただいた。

そして、農業界の前衛を走ることを自負する農業経営者であれば、それを自らの経営課題として取り組むとともに、この課題を市町村レベルでの行政だけでなく、そこに生きる農家各層も巻き込みつつ、もう一步の踏み込みをお願いしたい。現在進行する高齢化に伴う農業・農村の崩壊は、視点を変えれば、我が国の戦後農業が抱えてきた農業構造の桎

梏を克服するチャンスである。同時に、官主導の途上国型農業を革新し、単なる事業規模で語るのではない多様な農業経営を可能にしていくチャンスでもあるからだ。

僕は一昨年以来、山口市の要請で同地域の農業改革へのお手伝いをしてきた。数次にわたる勉強会の開催や実演会を重ねた後、先日、市が呼びかけて子実トウモロコシの収穫実演と研修会を行なった。地域の高齢農家や集落営農のリーダーたちも参加し、市のアンケート調査では高い評価を得たとの報告を聞いている。

これまで全国の農業経営者に呼びかけて実演検討会を行ってきたが、これからは各地の農業経営者が市町村の行政担当者とともに取り組む地域農業改革のお手伝いをしていくことが僕の役割なのだと思っている。読者各位におかれては、地域行政の方々とともに僕にお声がけをしていただきたい。水田イノベーションや子実トウモロコシの導入に限らず、加工用ジャガイモやタマネギその他の契約栽培、さらには中山間地域での地域事情を踏まえた新たな取り組みの提案など、技術提供企業や産品の実需者の紹介、あるいは地域での耕畜連携のあり方への指導を含めて、地域農業が新たな夢を共有すお手伝いをしてほしいと考えている。

江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。まったく管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。